平成　　年度 技術士第二次試験 模擬答案用紙

受験番号	
問題番号	Ⅱ－１－

技術部門	部門
選択科目	
専門とする事項	

※

○受験番号，問題番号，技術部門，選択科目及び専門とする事項の欄は必ず記入すること。
○解答欄の記入は，１マスにつき１文字とすること。（英数字及び図表を除く。）

（１）ビッグバン的アプローチのメリット

段階的導入と比較して、ビッグバン的アプローチで導入した際のメリットを以下に述べる。

①周辺システムとのインターフェースが不要

段階的導入を採用した場合、既存システムとERPパッケージ間のインターフェース開発が必要になる。一方、ビッグバン的アプローチの場合、既存システムとの連携が必要ないので、インターフェース開発が不要になる。

②導入期間が短い

段階的導入の場合、幾つかのフェーズを経て、新システムが導入される。一方、ビッグバン的アプローチの場合、一気に、新システムの導入が行われるので、導入期間が短期間で済む。

（２）ERP導入時の進め方

①事前検討事項

・自社のIT活用レベルや業務プロセス（業務フローや業務ルール）の成熟度の確認を行う。（導入側）

・ERPパッケージのフィット・アンド・ギャップ分析、ERPパッケージのデモ（提供側）

②プロジェクト計画フェーズ

・プロジェクト体制の構築、作業スケジュールの策定（導入側＋提供側）

③分析フェーズ

・社内ヒアリングによる業務プロセスの分析及び問題

●裏面は使用しないで下さい。　●裏面に記載された解答は無効とします。　24字×25字

平成　　年度 技術士第二次試験 模擬答案用紙

受験番号	
問題番号	Ⅱ－１－

技術部門	部門
選択科目	
専門とする事項	

※

○受験番号，問題番号，技術部門，選択科目及び専門とする事項の欄は必ず記入すること。
○解答欄の記入は，１マスにつき１文字とすること。（英数字及び図表を除く。）

点の抽出（導入側）
・上記業務プロセスに対する、ＥＲＰパッケージのフィット・アンド・ギャップ分析（提供側）
④構築／テストフェーズ
・ギャップに対する自社業務の見直し、本番データを利用した検証テスト（導入側）
・パラメータ設定、ギャップに対する追加機能のアドオン開発、複数機能を連携した結合テスト（提供側）
④移行／研修フェーズ
・システム操作研修会の実施、操作／運用マニュアルの作成（導入側＋提供側）
・データ／システム移行（提供側）
（３）業務推進での注意事項やリスク
①注意事項
・分析フェーズでのヒアリングは、該当部門の責任者だけでは、現場状況が把握しきれない場合があるため、必ずエンドユーザーを交える。
・プロジェクトリーダーの選定には、ＩＴスキルと他部門の業務知識を備えた社員を選定する。
②リスク
・ギャップに対する機能不足を全てアドオン開発で対応すると、開発工数がかかり予算超過や納期遅延が発生する。
・ＥＲＰ導入に対するエンドユーザーの参画意識が低く、新システムが活用されない。

●裏面は使用しないで下さい。　●裏面に記載された解答は無効とします。　24字×25字